

(様式2)

令和3年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
2	川崎市立南大師中学校	望月 貴司

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
(1) 何事も科学的に処理できる人をめざそう。 (2) 社会生活のすべてを民主的に行える人をめざそう。 (3) 豊かな教養を持った人をめざそう。 (4) 健康で働く意欲のある人をめざそう。 (5) 世界の人々から尊敬される人をめざそう。	○ 確かな学力の定着と主体的に学び、活動できる力を育てる教育の推進 ○ 思いやりのある豊かな心を育てる教育の推進 ○ 健康・安全教育の推進 ○ 開かれた学校づくりの推進	○ 生徒が生き生きと学習や活動をすることができ、充実感・達成感を味わい、自己肯定感が高められる学校をめざす。 ○ 昨年度に引き続き、広島への修学旅行を集大成とした系統的な平和教育の実践研究を推進し、平和の尊さを深く理解できる生徒の育成と本校における「平和教育スタンダード」の確立をめざす。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導・教育課程	○生徒が主体的に授業へ参加できるように学び合いを多く取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を授業展開の中で工夫した。 ○中高連携教育では、相互に授業参観を実施し、研修を深めた。(大師高) ○校内授業研究会はコロナ禍により初任研のみ実施。	○授業実践を通じて、教師や生徒にも「主体的・対話的で深い学び」の大切さが浸透しつつある。 ○初めて高校との相互授業参観を実施し、書面で意見交換をした。互いに有意義な研修となった。(小との交流は中止)	○教育課程研究会や校内授業研究会で学んだことを今後の授業に生かしていく。(コロナ禍により予定通り実施できなかった。) ○図書室の整備を進め、図書利用や読書活動が活発になるようにする。また、総括学校司書科とも連携し図書の充実を図る。
2 生徒指導・特別活動	○あいさつや日常的な声かけ、教育相談活動を通して、生徒の様子を把握し、迅速な対応に努めた。 ○学校全体で情報を共有し共通理解を図り適切な指導に努めた。 ○外部から講師を招き「人権教育移動教室」を実施した。国境なき医師団の話を中心により学びの場となった。 ○生徒主体の行事を積極的に行い、生徒の自己肯定感が高められるような工夫をする。(コロナ禍で中止や縮小)	○教職員が生徒との良好な関係を築くために、きめ細やかな声かけに努めている。 ○定期的な教育相談以外に、生徒が相談しやすい環境の整備や時間の確保が必要である。 ○コロナ禍の影響で学校行事や生徒会行事が中止・縮小され、自己肯定感を高めていくことに苦慮した。	○カウンセリングマインドを大切にされた支援や指導の充実を図り、より確かな信頼関係づくりに努める。 ○生徒の不安や相談に、全職員が関わりをもてるように職員の意識改革を進めるとともに、役割分担を明確にして対応する。 ○長期欠席者とその保護者には丁寧な対応を心掛け、組織的に関わっていくとともに、アプローチの方法を工夫し、外部機関との連携をより強化する。
3 保護者・地域社会等との連携	○掲示板や職員玄関前に学校・学年便りや写真を掲示し、広報活動に取り組んだ。 ○生徒の主体的な活動の場として地域での様々なボランティア活動を支援した。(今年度はコロナ禍により活動できなかった。) ○PTA活動は、制約の多い中ではあったが、工夫しながらできることを実行していった。	○例年積極的に教育活動や学校の情報を公開しているが、今年はHP上ゆ紙面による公開となった。今後も工夫しながら開かれた学校づくりを進めていく。 ○コロナ禍により、地域との関わりが希薄になってしまった。 ○PTA行事へ積極的に参加して、保護者からの信頼を高め、地域に根ざした学校づくりをさらに推進していく。	○掲示板や学校ホームページの定期的な更新に努め、教育活動を積極的に発信する。 ○ボランティア活動を推進し地域に貢献する生徒の育成に努める。 ○学校関係者評価委員会でアンケート結果を精査し、教育活動の点検と改善を行う。
4 平和教育	○令和2・3年度に教育課題(平和教育)研究推進校の指定を受け「さまざまなアプローチから平和について学ぶ試み」という研究主題のもと全校体制で研究を推進していく。 ○平和の尊さを深く理解できる生徒の育成をめざし実践を重ねる。	○広島への修学旅行を集大成とした系統的な平和教育の実践研究を推進した。コロナ禍の中ながら、実際に広島を訪れ、平和の尊さをより深く理解することができた。 ○全校体制で研究に取り組んだ成果として、文化祭での各学年の発表が平和学習に関する質の高い発表となった。	○学年間の連携を強化し、各学年ごとに取り組んだ平和学習の成果をまとめるとともに、平和館とも連携を強化して、本校における「平和教育スタンダード」の確立をめざすべく研究を推進し、研究成果を発表する。
5 健康・安全教育	○薬物乱用防止、熱中症予防、心肺蘇生法については実施方法等を工夫し外部講師による講演を実施できた。また歯の健康についてはコロナ禍により中断せざるを得なかった。 ○火災・地震・津波避難訓練はコロナ禍により中止した。	○歯の健康についての取組もコロナ禍により滞ってしまった。状況が改善された後、ぜひ、再開していきたい。 ○火災・地震・津波避難訓練はコロナ禍により中止したが、代替の机上訓練などを工夫して実施したい。	○生涯にわたって健康に過ごすために、歯の健康がいかに重要であるかを今後も継続して伝え、セルフケアの意識を高める。 ○多面的に危機管理意識の向上が図れるよう、さまざまな想定による訓練を継続的に実施する。

6	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の生徒の実態に応じ、年間を通して多くの職員でかわりをもつことができた。</li> <li>○特別な支援が必要な通常級の生徒について、関係機関とも連携し支援方法の工夫・改善に努め、支援級への移籍も促した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関とも連携し全職員で共通理解を図ることができた。</li> <li>○支援が必要な生徒の困り感や、個に応じた指導方法について、専門家等も交えて話し合い、適切な対応をする。場合により外部機関と連携し、ケース会議を計画的に実施していくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の困り感や保護者の願いに寄り添い、生徒の個性を受け止め、支援方法などについて、さらに工夫、改善していく。</li> <li>○多くの職員やサポーターが関わり、全校での共通理解を図っていく。また、積極的に外部機関と連携し多角的に支援していく。</li> </ul>
7	キャリア在り方生き方教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア在り方生き方教育」の研究成果を生かし、継続して実践と研究を推進していく。</li> <li>○生徒が学校生活に関心をもち、より積極的に、充実した毎日を送ることができ、自己実現が図れるように援助していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアノートの活用を継続して行った。</li> <li>○研究成果をもとに「キャリア在り方生き方教育」の視点から、学校教育の在り方や教育活動を見直し取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科の年間計画の中に、さらにキャリア在り方生き方教育を位置付けていく。</li> <li>○3年間を通してきめ細かな「キャリア在り方生き方教育」を進め、夢や希望の実現につながるような教育課程を編成する。</li> </ul>
8	職員研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「人権教育移動教室」を利用し、外部講師を招き、実践的な研修を実施できた。</li> <li>○教育課題(平和学習)研究推進の指定を受け、全校体制で研究に取り組むため、適宜職員へも平和学習の研修を行った。平和館の協力も得て充実した研修となった。</li> <li>○いじめ防止、体罰根絶、教職員の不祥事防止等の研修を適宜行った。</li> <li>○GIGAスクール構想を推進させるため、積極的に校内研修を実施した。また、そのために多くの職員にセンターでの研修を勧めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍でのいわゆる「コロナ差別」防止についての学習を職員ならびに生徒へ積極的にに行った。</li> <li>○取り組むべき教育課題や今日的な課題について研修し、職員の資質向上等につながった。</li> <li>○GIGAスクール構想を推進させるため、積極的に校内研修を実施することで、職員の活用意欲が高まった。多くの職員にセンターでの研修を勧めた成果として、各学年にサブリーダー的な人材を育成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平和の尊さを深く理解できる生徒の育成と本校における「平和教育スタンダード」の確立をめざして、さらに研究を推進する。</li> <li>○共生*共育を継続的に推進し、すべての生徒にとって居心地の良い学校・学級をめざす。</li> <li>○子どもたちの健全育成のために、情報モラル教育を計画的かつ継続的に実施する。</li> <li>○GIGAスクール構想を始めとして、取り組むべき教育課題や今日的な課題について継続的に研修し、職員の資質向上を図る。</li> </ul>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心・安全な学校生活を送れるよう、生徒に寄り添った教育を進めてほしい。</li> <li>○感染予防に努め、安全第一に教育活動を行ってほしい。</li> <li>○現状のように落ち着いた学校生活ができるように、今後も努力してほしい。</li> <li>○基礎基本を大切にされた指導を実施し、主体的に学習する生徒を育ててほしい</li> <li>○特別な支援が必要な生徒への対応を充実させてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感染予防には十分注意しつつ、安易に中止するのではなく「どのようにすれば実施できるか」を職員と鋭意検討し教育活動を実践していきたい。</li> <li>○コロナ禍という特殊な状況下でも、生徒が健全に育っていくように、さらに生徒に寄り添い、家庭や地域との連携を深め、きめ細やかな取組を行う。</li> <li>○「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業展開を工夫するとともに、わかる授業を実践し、基礎学力の定着をめざす。また、校内にGIGAスクール構想へ積極的に取り組む雰囲気を一層醸成していく。</li> <li>○学校評価の結果を分析し、課題の改善に向け全職員が共通理解のもと努力していく。</li> </ul>